P.38・39 水彩絵の具で描く

- 絵の具で心の空を描いてみよう -

概要 (めあて、学び

の目標を含む)

評価規準

○記憶や心の中にある「空」のイメージを水彩絵の具の特性などを生かして表現する

- ・思い出の空、空想の空、物語の中の空など「空」を対象としてイメージを膨らませる。
- ・参考写真などから、空の色の変化(グラデーション)、雲や星の造形を知るとともに、自分の「空」を構想する。
- ・構想した自分の「空」を、P.39 》いろいろな描き方や P.13 》ドリッピングや吹き流しといった表現効果を活用して表現する。
- ・各自の「空」を互いに鑑賞し、よさや工夫している点について意見交換する。

即空や雲などの形や色彩が感情にもたらす効果などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。

段水彩絵の具の特性を生かすとともに、意図に応じて表現方法を追求して創造的に表している。

記憶や心の中にある「空」を基に主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、心豊かに表現する構想を練っている。

醤造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。

閲記憶や心の中にある「空」に興味をもち、心の空の制作や鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

■主な準備物

【生徒】・水彩絵の具や用具 (ポスターカラーやアクリル絵の具でも可)

【教師】・制作用紙(画用紙B5~A4程度) ・大きめの刷毛 ・スポンジ ・ドライヤー ・参考となる写真など ※美術室の机または生徒机が耐水性の机であることを利用する。

■学習の流れ(●~⑤は 「短時間でつくる 『情景を描く』絵の具で心の空を描いてみよう」に対応)

| 段階 | 活動内容 | 指導者の働きかけ | 評価 | 留意点及び評価方法など |
|---------|---|---|-----|---|
| 導入 25分 | | すとともに、色彩や雲、星の形などの造形の要素とイメージを関係付けて考えさせる。 ○細かく描き込む表現ではなく、イメージした形や色彩を思い切って表現するように指導する。 | 態 | 【発言・活動の様子】及び 【ワークシート】 |
| 展開 45分 | 机に張りつける。 ③【グラデーション】各自の「空」のイメージに応じて、明るい色から塗る。 ・空の上の部分と地面に近い部分の違いなどを意識する。 ・多めの水でにじませたり、乾いた刷毛で色の境目をぼかしたりする。 ・P.12・13 》形や色をイメージに(モダンテク | とも可(必要に応じ、描きながらぞうきんで水 拭きさせる)。 ○多めの水で溶いた絵の具を、大きめの筆や刷毛 にたっぷり含ませて素早く塗るよう指示し、紙 の端からはみ出すくらいに思い切って描かせる。 ※筆で描くだけではなく、「ドリッピング」や「吹 き流し」など既習の表現経験も生かして創意工 | 態発技 | 【活動の様子】 【ワークシート】 【活動の様子】 及び 【制作中の作品】 |
| まとめ 30分 | ●描いた「空」に題名を付ける。○制作した作品を並べ相互鑑賞する。○他の人の作品を見て、よさや工夫を感じ取るとともにワークシートに記入する。○感じ取ったことについて意見交換する。 | ○生徒の作品を基に、作品の制作意図や表現の工 夫について意見交換させるとともに、イメージ と描かれた形や色彩の関係についても対話させ る。 | 態知鑑 | 【活動の様子】 【ワークシート】 【発言・意見交換の内容】及び 【ワークシート】 |

◆指導のヒント

前時に予告として導入の一部を実施し、本時は1時間(10+40 分) の授業とし、次時に鑑賞の授業を行うこともできる。まとめ を独立した鑑賞の授業として実施する場合は、ゴッホやモネ、横 山大観など特徴的な空の空間表現の作品鑑賞と組み合わせ、イ メージと造形の要素の関係について深めることもできる。

◆指導のポイント

生徒にとって「空」は身近な存在であるとともに、あの時の思 い出の空、空想の空、物語の中の空など、一人ひとりの独自のイ メージが展開でき、さまざまな主題を生成することが可能である。 美術室や教室にある生徒机の天板が耐水性であることを利用し、 紙を直接天板に水で張りつけたり、空いた場所をパレット代わり にしたりするなど、スピーディーで思い切った表現をねらった。

(ワークシートの例) 描いた「私の空」の題名: 工夫したところ 「私の空」 描いて感じたこと いつ、どこ、どのような… うまくいかなかったこと 改善点 「私の空」のイメージ メモ 色彩や形(空を構成するもの) 「友達の空① | 「名前 必要に応じ 題名: アイデア よさや工夫: スケッチ 「友達の空②」「名前 題名: 組 名前 よさや工夫: